

第2章 現状と課題

1 街路樹の現状

本市の街路樹の多くは、植栽されてから約30年以上が経過しています。大きく成長した街路樹は豊かな緑陰を形成するとともに、道路空間にうるおいをもたらしていますが、近年では、老朽化や大径木化などにより、様々な問題が広がりつつあります。



写真 2-1 道路空間にうるおいをもたらす街路樹

(1) 街路樹の老朽化・大径木化による影響

樹木の落ち枝や倒木の発生

老朽化した樹木は、道路という厳しい生育環境の中で樹勢が衰える場合が多く、枯れ枝が増加したり、傷口からキノコなどの腐朽菌が侵入するなどした結果、これらの要因により特に風の強い時、落ち枝や倒木などの事故が発生しやすい状況になっています。



写真 2-2 腐朽菌の侵入によるキノコの発生



写真 2-3 台風による倒木

歩行者の快適な通行への支障

誰もが通行しやすいよう、時代の経過とともに道路構造の基準も変わってきました。過去に植えられた街路樹の中には、現在の基準に対して十分な歩道幅員を確保できていない場所に植栽されたものもあり、歩行空間が狭くすれ違いにくくなっています。また、大径木化した樹木の根が成長し、舗装の持ち上がり（根上り）が起き、歩行者がつまずいて転倒するなどの危険性が生じています。



写真 2-4 狭い歩道への植栽



写真 2-5 樹木の根による舗装の持ち上がり

交通の見通しの悪化

街路樹が信号機などの施設に近接しているところや、交差点付近に植栽されているところでは、樹木の成長により信号機や交差点が見にくくなるなど交通安全の面で支障となっています。



写真 2-6 信号機と接触しかけている街路樹

(2) 景観・地域住民等への影響

まちの景観悪化

害虫や落ち葉などによる地域住民の生活環境への影響を緩和するため、やむを得ず強く枝を切り詰める強剪定を行っています。それにより、樹木本来の樹形が崩れて、まちの景観に影響を及ぼすようになっていきます。また、植栽が枯れた場所が空樹となってしまう雑草が生えやすく見栄えが悪くなっています。



写真 2-7 害虫剪定により電柱のようになった街路樹

地域住民の生活環境への支障

大量の落ち葉が舞い落ちる場所では、その清掃が地域住民の負担となっています。場所によっては、落ち葉が排水溝などへ堆積することにより、道路冠水の原因となることもあります。また、ムクドリなどが飛来することにより、夜間の鳴き声による騒がしさや、フンによる道路やベンチ・花壇の汚れや悪臭、毛虫などの害虫の発生が地域住民に不快感を与えています。



写真 2-8 落ち葉が吹きだまっている歩道

過密化による生育環境の悪化

公園などの樹木が多い近隣施設に面し、街路樹が植栽されている場所があります。そのような路線に街路樹が植栽されていると、樹木が大きくなるにつれ、過密な状態となり、樹木同士が競合し健全な生育環境が保たれません。



写真 2-9 公園樹と街路樹の競合

2 ボランティアの現状

(1) ボランティア意識の浸透

現在、37団体の街路樹愛護会加入者と142件の緑のアダプト制度登録者が街路樹沿線の美化活動に従事しています。アンケート回答者のうち、半数近くがほぼ毎日清掃や除草などを行っていることから、積極的に活動していることが伺えます。

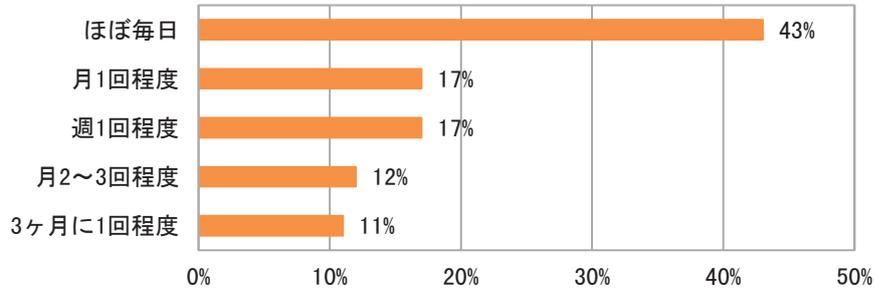


図 2-1 【設問】 ボランティアの活動頻度

活動を続ける理由ややりがいは、「地域の美化活動への貢献」や「地域とのつながり」と答える方が多く、地域を大切にしていることが読み取れます。また、「健康維持のため」や「ライフワークとなっている」などの回答から、ボランティア活動が単なる美化活動だけではない意義をもたらしていると考えられます。

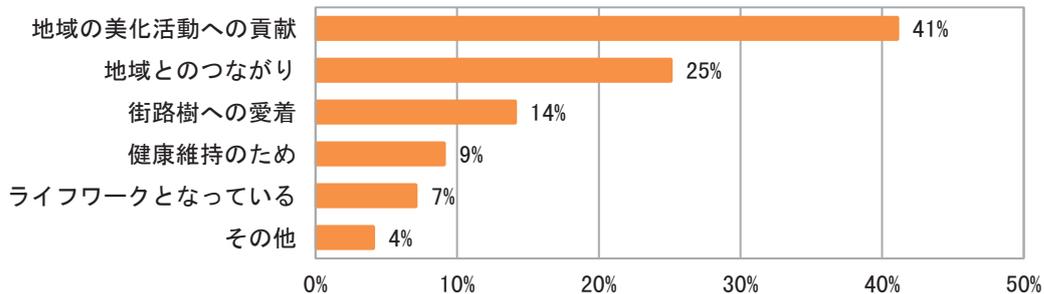


図 2-2 【設問】 活動を続ける理由（やりがい）

(2) ボランティア活動を続けていく上での不安

その一方で、活動を続ける中では「活動メンバーの高齢化」、「後継者がいない」、「地域の理解、協力が得られていない」などの不安を感じています。その背景には人々の街路樹そのものへの関心の低下や地域コミュニティの希薄化などがあると考えられます。そのことがさらに将来への不安を増長させていると推察されます。

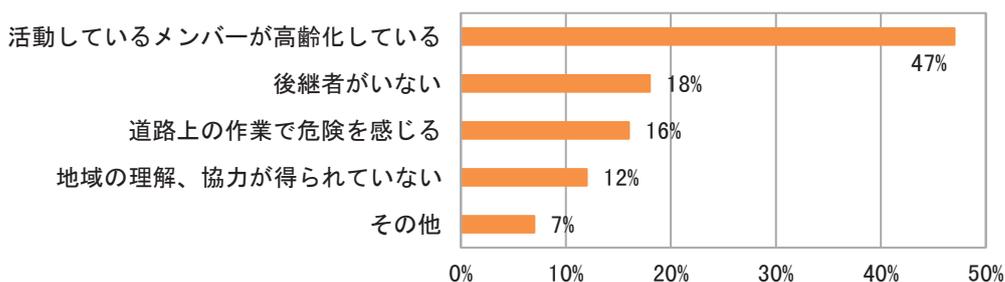


図 2-3 【設問】 活動を続けていく上で不安なこと

3 維持管理費の現状

これまで街路樹を計画的に増やしてきた中で、表面化する問題に対応し、適正に維持管理を行うため予算を大幅に増額してきました。今後は、さらに樹木の老朽化・大径木化が進むことから、一本あたりにかかるコストも増大し、全体的な維持管理費も増加することが見込まれます。

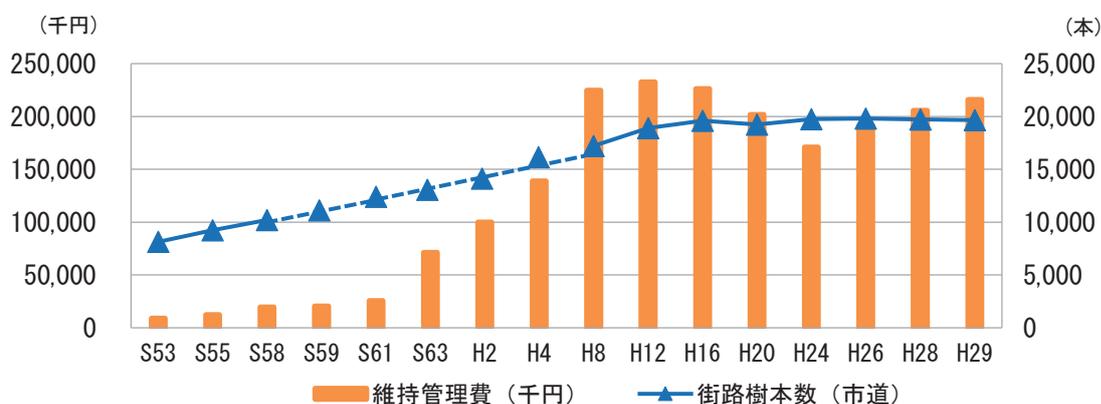


図2-4 維持管理費の推移

4 課題

本市では、これまで緑の多いまちを目指し、道路においても緑化の推進に取り組んできました。明日の豊橋市のまちづくりに反映させることを目的として実施している市民意識調査でも、地域の生活環境における評価項目で、多くの市民が「みどり、自然環境の豊かさ」に満足しており、市民にとって緑は大切な存在であることが伺えます。

街路樹は安らぎある暮らしに必要なものであることから、現状の問題を行政と市民が一体となって効率的・効果的に解決していく必要があります。

課題のまとめ

- 街路樹の老朽化・大径木化による道路の安全性の懸念や、落ち葉の飛散などによる住民生活への影響が発生しています。
⇒街路樹が市民にとって安全で快適な存在となるよう、健全な街路樹づくりを目指す必要があります。
- 街路樹沿線の美化活動に従事するボランティアが抱える不安要素や、大きく成長した街路樹の維持管理費の増加によって、皆が満足できる街路樹を維持することが難しくなっています。
⇒街路樹が地域の生活に密着し、親しみや愛着を抱けるよう、市民協働での街路樹の魅力づくりを目指す必要があります。